

「福永耕二の句碑」 建立



俳人福永耕二川辺顕彰の会により令和2年8月11日建立

がらすど
硝子戸の わが顔と逢ふ 稲びかり
かお あう いな

南九州市立中福良小学校建立の句

【解説】

第一句集『鳥語』所収。昭和四十三年ごろの作。季語は「稲びかり」で秋、「稲妻」とも言う。「稲びかり」は「空中に電気が放電されることによって閃く電光」を言う。外では盛んに稲びかりが走り、天気は不穏な状況下にあつて、締め切ったガラス戸には、自分の不安げな顔が映し出されている。「わが顔と逢ふ」とは、独特で気の利いた表現。一瞬の稲びかりの中にかいま見た自己凝視の句。この句の後にも「枯蓮（かれはす）に対（む）かふわが顔知りつくす」がある。

第一句集「鳥語」の解説を書いた火村卓造氏、第二句集「踏歌」の解説を書いた能村研三氏の推挙した作品を中心に、世に高い評価を得ている作品を、淵脇護が選抜した作品群の句碑を、南九州市内各小中学校に建立。